

令和5年3月9日

南の風 471

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

本号では、バスケットボールのゲームにおける『クリティカルモーメント』について触れます。

平尾氏は著書の中で、プレーヤーがゲームの中でクリティカルモーメントの一瞬を感じることが重要であり、そのためには練習のときから一瞬一瞬を大切にしなければならないと言っています。

ただバスケットボール、特にU15カテゴリーでは、選手がゲームの中でクリティカルモーメントに気づくのは難しいと思います。ですから今回は一つのゲームを例に挙げて、流れの中で何処にクリティカルモーメントがあったかを探ることにします。

あるミニバスの大会でAチームとBチームが戦いました。両チームハーフコートマンツーマンです。第1Qから接戦となり第2Qに入っても、点差が開きませんでした。前半を終えて、Aチーム12-14Bチームでした。後半に入り、ベストメンバー同士の戦いになりました。試合の流れはどちらにも傾かず第3Qも4点以上は離れませんでした。第3Q終了時、(Aチーム24-22Bチーム)

第4Qに入り、Bチームがオールコートプレスを仕掛け、Aチームのパスミスやバイオレーションを誘い、連続得点し逆転します。(Aチーム24-30Bチーム)ここでAチームがタイムアウトを取ります。(残り時間4分弱)

タイムアウト明け、Bチームはオールコートプレスを続けます。Aチームはスクリーンを使いインバウンドパスを入れ、すぐパッサーにリターンして一気に縦パスからドリブルシュートで得点します。ここで今度はAチームがオールコートプレスでプレッシャーを掛けます。あわてたのかBチームのスロアーがパスミスして、続けて得点を許します。(Aチーム30-30Bチームで同点)

さらにBチームのボール運びが乱れパスカットが起こり、レイアップシュートでAチームが逆転します。続けて、Bチームのスロアー(エンドラインからの)がロングパスを狙いますが、これもカットされドリブルシュートに持ち込まれ、たまらずファウルもおきバスケットカウントになります。フリースローも決まります。(Aチーム35-30Bチーム)残り時間2分弱)

ここでBチームがタイムアウトを取ります。タイムアウト明け、Bチームはオールコートプレスを続けます。Aチームは、マッチアップエリアのノーマルマンツーマンです。Bチームはペイントへのドライブとポストの合わせで局面打開を試みますが、あわてているせいかパス、ドリブルやパスにミスがでます。Aチームは相手のミス(ポストへのパスをカット)を突いて、トランジションからドリブルシュートで得点します。

ここでBチームのフォワードがウイークサイドドライブで得点しますが、タイムアップとなりました。最終スコアAチーム37-32Bチームでした。両チーム死力を尽くしたゲームでした。

戦評風に書きました。二転三転するゲーム展開でした。十分に内容の展開をお伝えできなかったかもしれませんが、このゲームの『クリティカルモーメント』はどこにあったのでしょうか。選手、ベンチスタッフとも必死の攻防だったと思います。

次号で、何処にこのゲームのクリティカルモーメントがあったのかを探ってみたいと思います。